

11月9日は「119番の日」です

「119番の日」は、消防に対する正しい理解と認識を深め、防火防災意識の高揚及び地域ぐるみの防災体制の確立を目的として、昭和62年から11月9日は「119番の日」として設定されました。

「119番の日」は、皆さんと消防との結びつきを象徴するダイヤル番号にちなんだものですが、正しい119番通報について考えて見てはいかががでしょうか。

消火活動や救急救助活動は、1分1秒をあらそう時間との勝負です。

消防では、119番通報によって、もっとも現場に近い消防署から消防車、救急車など、災害にもっとも適切な車両を出動させます。

もし、慌てて場所や状況を正しく伝えられなければ、消防車、救急車などの現場への到着が遅れてしまい災害が拡大し大惨事になることや、助かる命が助からなくなる場合があります。



皆さんの正しい119番通報が、迅速・的確な消防活動につながります。いざというときに備え、電話機のそばに自宅の場所の説明の仕方（住所や電話番号など）や近くの目標物(学校、工場、店、公園など)を書いたメモを張っておくなど、いつでも落ち着いて正確な通報ができるように心がけてください。

また、携帯電話からの通報は、発信場所や電波状況によっては、通報地点と異なる近隣地域の消防本部にかかることもありますので、通報時の住所(市町村名から)や現在地、近くの目標物及び携帯電話番号を正確に伝え、通報後も電源を切らずに、しばらくその場にいてください。

平成20年の管内における「119番通報」は5,023件ありました。その内、問い合わせ・間違い等の災害以外の通報が1,489件で、全体の29.6%を占めています。

「119番」は、私たちの生命・財産を守る大切な緊急電話です。適切な利用をお願いします。